

第2回「(仮称)八王子市町会・自治会等の活動活性化の
推進に関する条例」策定検討会 議事録

日時：平成30年8月30日(木) 18時30分～

場所：八王子市役所 8階 802会議室

1. 次第

1 議事

(1) 事務局報告・意見交換

ア 座長から資料提供

イ 市職員研修ワークショップ及び市民委員等候補者名簿登録者対象ワークショップ
(2回)の実施結果について

(2) 検討

ア 条例の全体イメージについて

イ 条例に盛り込むべき内容について

2 その他

2. 出席者

- ・川村委員、小室委員、進邦委員、田島委員、西田委員、黄委員（五十音順）
- ・市民活動推進部長、協働推進課長、協働推進課職員 5名

3. 配布資料

資料 1 座長から資料提供

資料 2 ワークショップの実施結果について

資料 3 条例の構成（案）について

資料 4 条例に盛り込むべき内容について

【午後6時45分開会】

- 座長
- ・第2回「(仮称)八王子市町会・自治会等の活動活性化の推進に関する条例」策定検討会を開始する。
 - ・委員全員出席であり、本検討会は有効に成立している。
 - ・今回の検討会で、条例の大枠を決定する。
- 事務局 (配布資料の確認)
- 座長
- ・本日の検討会の傍聴希望はなし。

(1) ア 座長から資料提供・説明

- 座長
- ・あくまでも参考の資料
 - ・本検討会では、町会・自治会等の活動を推進する条例を策定するために開催されているが、国でも約50年前から、「コミュニティの形成」について調査部会が開かれており、コミュニティ政策を進めている。
 - ・国が制定した「コミュニティに関する対策要綱」では、コミュニティ・センターの設置、センターを中心とした運営が言及されている。今日では、コミュニティ・センターの運営主体が「貸館業務」が中心となってしまう、コミュニティ活動がなかなかできていない現状がある。
 - ・八王子市においては、市民センターを運営している住民協議会を構成する町会・自治会等が住民協議会を活用することで、コミュニティ活動がうまく進むだろうと期待している。
 - ・国においては、市町村合併後の市域の拡大でどのようにコミュニティを形成するかが課題として挙げられ、「地域協働体」が定義され、各地域での協働体の創設が謳われた。(広くなった市域を分割し、「地域協働体」による「地域自治」を制度的に認め、コミュニティの再生を目指している。)
 - ・「地域協働体」は既存の町会や自治会、PTAや老人会、子ども会などをまとめたものであるが、具体的でなく、整理されていない。
 - ・八王子市では、市民の協働の意識は比較的高くはないが、町会加入率はそこまで低くない。
 - ・町会に関しては、賛否両論あり、「自由を拘束する組織」という誤解もある。
 - ・町会の機能、町会に対する意識は、時代によって変化してきた。

(1) イ ワークショップの実施結果

- 事務局
- ・7月中に2回、市民委員等候補者名簿登録者対象ワークショップを行った。
 - ・合計で31名参加した。
 - ・ワークショップのテーマは、「地域の課題解決のため、町会・市民・行政の役割」
 - ・グループごとに、町会加入・未加入を含めて自己紹介し、自分の住む地域の課題

について挙げてもらい、その課題に対して、町会・市民・行政の役割を議論した。

- ・意見の概要は資料のとおりである。
- ・市民ワークショップに先駆けて、八王子市職員研修で、同内容（ただし、「市民の役割」を除く）でワークショップを行った。

○座長

- ・市職員の皆さんが、市民に期待することはあるか。

○事務局

- ・様々な催しや市民委員の公募など、市が力を入れてやっていると思っけていても、周知をしてもなかなか集まってもらえない、伝わっていない現状がある。行政としては、如何にして市民の皆様へ伝え、まずは参加していただくことが重要となる。

今回の市民ワークショップは、住民基本台帳に基づいて無作為抽出された市民委員の方に参加を呼びかけた。多くの市民の方に参加していただき、広聴課と協働推進課の職員がファシリテーターとなって議論を進め、大変参考になる御意見をお聞きすることができた。

市民の皆様には、いろんなチャンネルを通じて、市に意見を聞かせてほしいと考えている。

○座長

- ・今まで市政に目を向けていなかった方が、市政に参加するのは良いと思う。従来からある町会自治会等の団体とバランスをとってうまくやれば良いと思う。八王子は町会自治会の加入率が高いので、加入率を維持して、うまく活動を続けていけたらと思う。

○事務局

- ・職員の立場としては難しいが、一個人としては、自分の住んでいる地域とのつながりを感じてほしいという思いがある。まち・川の清掃やゴミのリサイクルなどに参加するだけでも、地域の実感できるのではないかな。

○事務局

- ・イベントの参加など、最初のきっかけが肝心なのではないか。学生から社会人になる過程で、地域とつながっている感覚があまりない。社会人になってから実家を出て自立すると、地域とつながるきっかけがあまりない。

○委員

- ・日本はボランティア団体が活発。地域とつながるきっかけはボランティア団体だった。
- ・子ども会やマンションの理事会など、様々な場面で地域とつながるきっかけがあった。
- ・振り返ってみると、地域の団体等に何らかのかたちでお世話になっている。
- ・八王子まつりなど、八王子市は市民の力がすごいと思う。

○座長

- ・職員ワークショップの町会の役割で、「住民自治の範囲を明確に会員に発信」というのはどういう趣旨か。

○事務局

- ・町会に加入している職員が、町会・市民・行政の役割（町会はどこまでやる、それ以上は行政がやる）を明確にした方が、町会に入りやすいのではないかなという意見だった。

○座長

- ・どこまでが市民の役割か、行政の役割かを考えることは重要だが、難しい議題。

- ・住民自治について、国が提唱しているのは、「補完性の原則」である。自分たちができることは自分たちで、できないことは地域で、地域でできないことは市町村で、市町村でできないことは都道府県で、都道府県でできないことは国で、となる。この「補完性の原則」は、原則自己責任となっているが、本来の意味ではない。
- ・役割を決めて線引きしてしまうと、どうしても受け身になる。
- ・住民自治を話し合うことは重要である。
- 委員 ・市として、地域に参加する職員の人材育成は、現在行っていないのか。
- 事務局 ・職員研修の中では、地域に行って参加する研修は行っていない。ワークショップを通して、町会等、地域に参加することを呼びかけている。
- 委員 ・地域の中に入っていけるような人材がいればいいと思う。
- ・顔と顔をつきあわせて交流ができればよいというのは市も同じではないだろうか。
- ・町会など、地域の懸け橋となると良い。そういった仕組み、システムがあるといいなと思う。
- 事務局 ・市民ワークショップでは、市の職員と膝を突き合わせて話すことができよかったという感想があった。対等な目線でそれぞれの考えを言うこと、地域に行って話し合うことが重要だと感じた。
- 委員 ・自分の町会では、市の職員が役員をやっている。ワークショップの中で、若い世代が地域とつながっている感覚が薄いという意見があったが、まずはイベントに参加してもらうというのが課題だ。イベントの際には、回覧や掲示など様々な取り組みをしているが、参加率が低い。川の清掃デーなどでは、高齢者の参加率は高いが、若い方が少ないため、参加賞を設けるなどして、子ども会や育成会に参加を呼びかけている。
- 委員 ・周知をしても集まらないという点で、自分でイベントを行う際に、チラシを周囲に配布してもなかなか周知されない。SNS やインターネットではなく、より近いところまで踏み込んでいくのが必要なのではないか。未加入の人に「加入してなくて困ったこと」を聞いても、加入していないのでわからない。
- 委員 ・町会では、未加入の人でも市からの回覧物などを配布してくださいと言われていいる。未加入の人にも回覧が行くため、特に不自由なことはないと答えるのだと思う。
- 委員 ・自分から積極的に地域に参加する人と、誰かに後押しされて参加する人もいて、なかなか難しい。
- 委員 ・一人暮らしの学生は町会の存在も、イベントも全く知らないことが多い。大家さんを介して、町会の説明をお願いしていけば、一人暮らしの方も町会の存在を知ることができるのではないか。
- 座長 ・一人暮らしの人に対して、町会はどのようにアプローチするか。
- 委員 ・通常、ほとんどしない。独身寮などには、行っていない。

学生・単身者のマンションの掲示板に掲示してもらおうというアプローチをした方が良いのではないかと思います。

- 座長
 - ・独身の方が地域に参加しないということはないと思うので、うまく声を掛けていけたらいいと思う。
 - ・学生は4年間でいなくなってしまうという意識が大きいのではないか。
- 委員
 - ・学生のときから身近に感じるの、垣根がなくなっていいのではないか。学生を入れる方向で考えた方が良く思う。地域の人材育成に加え、「この地域がよかった」という地域に留まるきっかけとなるのではないか。
- 委員
 - ・学生が喜ぶようなポスターを、大学のボランティアセンターに掲示すると良い。ポスターの内容は、入会費の免除、イベントの準備・運営補助、SNSの周知など。責務や役割と書くと引け目を感じてしまうので避けたほうが良い。面接でボランティアをやったことを言いたい学生が多い。イベント後に行政から感謝状や、ボランティア認定証をもらえとなお良いと思う。
- 座長
 - ・活動に参加した証明があれば、学生としてはやる価値があるのでは。
- 委員
 - ・高校では、ボランティアが授業の中に組み込まれているところもある。参加した証明がいない場合もある。単位など、義務で参加することには抵抗があるが、地域に目を向けるきっかけとなるのではないか。
- 事務局
 - ・学生の立場から言えば、「町会に加入しませんか」よりも「町会でボランティア活動をしませんか」の方がハードルは下がるのだろうか。
- 委員
 - ・下がると思う。町会といわれると、難しいのかなとか、役割があるのかなとか感じるが、ボランティアと言われると気軽に感じる。
- 委員
 - ・大学生は、親元を離れているが、高校生は町会活動などに親を通じて触れている。大学生が町会を知っているかどうかは、子ども時代に町会活動に触れていたかどうか大きいのではないか。その点、子どもたちが町会活動に参加する意義は大きく、将来の活動の担い手であるという視点で子どもたちを地域で育てることも重要ではないか。
- 委員
 - ・小学生の時代から、育成会等を通じて活動に触れることは重要だと思う。
- 委員
 - ・子ども時代の活動は記憶に残っている。

(2) ア 条例の全体イメージについて

- 座長
 - ・資料3について、事務局から説明願う。
- 事務局
 - ・資料3では、条例の構成案について取り上げる。
(資料3説明)
 - ・名称は次回の検討会で取り上げる。今回は内容について検討する。
 - ・資料3は案なので、資料4で検討する中で、項目は変動する。
- 座長
 - ・資料3に挙げられている項目・構成について、これから具体的に内容を検討していく。検討の中で項目を追加できると思うが、今の段階で追加があれば申し出て

いただきたい。

(2) イ 条例に盛り込むべき内容について

- 事務局
- ・現段階では追加がないようなので、先に資料4に入りたい。
 - ・資料4に基づいて、こういったキーワード等を入れたほうが良いというのがあればご意見をいただきたい。
- 座長
- ・前文から検討を始める。各委員からご意見を願います。
- 委員
- ・他市を見てみると、前文がある場合とない場合がある。前文をつくるのであれば、八王子市の歴史や背景など、町会自治会連合会の役割、現状と課題、中核市であることを言及した方が良いと思う。市自体が大きな役割を担うようになってきたからこそ、市がやってきたことでも、地域を細分化して自分たちでやっていくんだという思いを盛り込んでいければ良いのではないか。
- 事務局
- ・中核市になると、都からいろいろな権限がもらえるが、権限の行使にあたり、より地域の実情にあった行政ができる。地域の皆さんの声を聞きながら、地域の皆さんが地域のことを決める、それを広げていくことが重要になってくる。
- 委員
- ・誰もが住み続けたいと思えるまち、町会自治会を元気にしたいという思い。
- 委員
- ・高尾山など自然豊かであること、宿場町、織物の町として栄えてきたという時代背景、近年では学園都市、中小企業が集積する中核市まで発展した歴史、地域コミュニティの現状など。町会と市との協働を明確にするために条例を制定するという事に言及する。
- 座長
- ・今日で決まりというわけではないので、他に思いついたキーワードがあれば意見を出していただきたい。
- 委員
- ・町会・自治会の活性化。
- 委員
- ・中核市をキーワードに入れた方が良い。
 - ・八王子市は、現在の市となるまでの間、合併を繰り返した経過がある。しかし、町会・自治会加入率が高く推移しているのは、隣近所で顔が見える関係を築けたからこそである。条例を策定するに当たり、これまで築いた歴史を含めて、顔の見える関係づくりを入れた方が良い。
- 座長
- ・前文は、どの言葉を含めなければならない等の決まりは無いので、後でこのキーワードを含めた方が良いとの意見があれば伝えて欲しい。
- 事務局
- ・条例制定済の他市の条文のキーワードを資料3に記載してある。この部分について、項目ごとに意見を伺いたい。
- 座長
- ・前文以降の項目について、委員が事前に考えてこられた内容を配付させていただいたので、考えたキーワードを伝えていただきたい。
- 委員
- ・目的の項目について、各委員から次のキーワードが挙げられた。
 - ・心が豊かになること
 - ・誰もが安心して住み続けられる街

- ・協働して支え合える街を目的として、地域が活性化すること
 - ・災害時に地域で助け合えるような、地域でつながりを持つこと
 - ・加入促進
- 事務局
- ・定義の項目は、全体の文案がまとまってから考えていきたい。
 - ・基本理念は、加入促進を前面に出している自治体があり、ほかには活動の活性化や役割の明確化が理念に挙げられている。この部分についてご意見を伺いたい。
- 委員
- ・地域住民が支えあい、交流を深め、自主的に町会・自治会の活動ができる。
 - ・町会・自治会等の活動が、多様な価値観を尊重し、町会・自治会等の活動の自立性が損なわれないようにする。
 - ・地域住民、町会・自治会等、企業・大学等及び市が相互に理解のもと連携し、地域コミュニティを発展させる。
 - ・つながり合い、支え合うまち八王子
 - ・地域の中で誰もが参加し、ともに支え合うまち
 - ・町会・自治会の活性化は、次世代につながる活動であるので、そのフレーズも考えてみた。
 - ・地域の一人ひとりが活躍し、町会・自治会が活性化すること。
- 座長
- ・外国人については、基本理念に含んで考えるのか、市民の役割の部分で考えるのか、この部分はどこまで広げて考えるべきか考える必要がある。
- 委員
- ・市民の役割として考えても良いが、議論の余地がある。
- 委員
- ・役割と責務の違いは何か。
- 事務局
- ・役割は強制力を持たない部分。
- 委員
- ・市民の「責務」とするのは難しい。自発的に活動する部分を強制できないが、表現の思いとしては伝えたい。
- 事務局
- ・市の責務について、財政的支援や、加入促進につながる支援を盛り込むなど、他市では、含まれていることもあるが、議論いただきたい。
- 委員
- ・地域の現状を把握し、そこから地域課題を把握するため、町会・自治会等と連絡を密にする必要がある。そのために、地域担当職員がいてくれれば良い。
 - ・公助と共助をキーワードとして挙げた。
 - ・活動の活性化への支援。
 - ・個別町会で参考となるため、他地域の活動の広報をしっかりとった方が良い。
 - ・地域ニーズを把握するとともに、加入促進を促す。
 - ・財政的支援もあった方が良いが、地域活動の拠点として、市民センターがある。自分達では施設は作れないから、その部分は充足している。
 - ・市では、情報提供を行うとともに、意見の集約は現状で機能しているので、町会・自治会との関係性のあり方の明文化をした方が良い。
- 座長
- ・町会・自治会等の役割について
- 委員
- ・町会・自治会は、市と地域住民との重要な橋渡しを行う機能を有するものだが、

条例制定では、活性化や自主性は生まれないと考える。

- ・中核市になったので、地域の実情に応じた町会・自治会の活動において、柔軟性を持つ決定権を移譲しつつ、町会・自治会の方向性を皆が共有化できたら良い。
- ・中間支援団体など、組織と組織のネットワークでつながるための仕組みの構築が必要である。
- ・町会・自治会で、多世代の人材育成が出来るような仕組みづくり。
- ・平常時はつながりを持ち、災害時は助け合いが持てる、共助できるために、顔の見える関係性づくり。

○委員 ・町会自治会の役割としては、住民の加入と参加の促進。次に防災が大事かと思う。幅広い世代が加入すると、活性化につながると思う。

○委員 ・各地域で抱えている課題が違う。地域の課題を地域が自ら見つけ、行政を巻き込んで解決するシステムは大事だと思う。

○委員 ・幅広い世代の中で、特に子どもたちの子供会への加入は大切だと思う。町会は楽しい場所であることを伝えたい。

○座長 ・市民の役割について、御意見いただきたい。

○委員 ・国民・都民・市民などの単位がある。一個人より少し大きい単位の町会・自治会というものがある、自分の希望を伝えたら、叶えやすいメリットがあると思う。また、自ら動くことで、周りに影響を与えられる単位も町会・自治会であるというイメージを持っている。それが、自分の根底にあっての地域社会の一員である自覚を持つことが重要なのではと思っている。地域住民であって地域の一員であるからこそ自分が動けば、何かができるというメリットがある。

・地域住民同士が支え合って、安全安心、心豊かに暮らせるように町会自治会の活動に積極的に参加するようになってほしい。市民の役割について、御意見いただきたい。

・地域社会の特性あるいは課題に自分のできる範囲で良いので、個人の持っている力を発揮しやすい環境をメリットと考え自主的に取り組むようになればと思う。

○座長 ・参加することは何かしなければいけないかと、ハードルを高くしてしまうが、自分のできる範囲でということは、大事だと思う。

○委員 ・町会の構成員である一住民が、「誰かがやるから」、「誰かがやってくれる」ではなく、一人一人が、関心を持つことが重要なのでは考える。地域の事を自分の事としてとらえることがキーワードとなると考える。

○委員 ・一市民として、地域コミュニティの活動になるべく参加することが大事。
・支え合い、助け合いの関係を作るには、普段からそういった意識を持っていることが大事だと思う。

○座長 ・市民の責務とは言えないが、役割といった形で進める。

○座長 ・事業者の役割と住宅購入者等に対する情報の提供について、まとめて議論する。

○委員 ・地域を活性化するためには、寄付だけではなく自分たちも参加する。

- ・町会自治会が一生懸命やっていたら、企業もサポートに回らなければならないと思う。
 - ・寄付だけではなく、一歩踏み込んだ参加を期待したい。
 - ・企業や大学は、地域に根差している認識を持つ必要もある。
- 委員
- ・災害時の協力体制
 - ・企業やNPOなどの得意分野を地域に提供することにより、事業者も地域貢献していることになる。
 - ・集合住宅に住んでいようが、戸建てに住んでいようが、誰もが地域の構成員である意識。
- 委員
- ・私の住んでいる地域では、ハロウィンの時は、商店街で連携しているのか、子どもたちにお菓子を提供するイベントしている。町会や事業者と連携してイベントを行うと地域の活性化につながると思う。
 - ・住宅購入者への情報提供も盛り込んだ方が良くと思う。
- 委員
- ・事業者も地域住民の一員であることを記載して欲しい。
 - ・マンションなどの新築時には、町会自治会へ事前に連絡を入れる旨を記載して欲しい。
- 委員
- ・日本に来たばかりの外国人には、不動産屋さんが居住する町会を紹介してあげると、ごみの分別などスムーズだと思う。
- 委員
- ・チラシだけ渡すよりも、一歩近づいてもらえるような文言を記載しないと、文字も言葉も分からないので、顔を見て説明できるような事業者の役割としてはいかがか。
- 事務局
- ・市民には、学生や外国人についても含まれている。あえて定義として記載しないが、何らかの形で理解ができるような内容とする。
- 委員
- ・大学からも入学式のガイダンス等などで学生へ町会・自治会について、説明があるとボランティアに参加する学生もいると思う。
- 座長
- ・全体を通して、八王子は町会自治会の加入率も高いが、市民活動も盛んな所であるので、うまく連携や協力すると、より良くなると思う。中間支援という言葉を使いながら、謳いこめないかと思う。
 - ・「町会自治会は、八王子の大事な財産である」と市は認識していることを表明して欲しい。

【午後9時30分閉会】